

36 東京法学院忘年会

〔「法学新報」第三三号 明治二十六年十二月二十八日〕

○法学院忘年会

本月十七日東京法学院にて講師院友生徒の忘年会を催せり会するもの無慮一千余人講師には菊地<sup>(マキ)</sup>、山田、穂積、奥田、岡山、土方及高橋等の諸氏出席せり門前に交叉したる国旗と構内に懸へる各国の旗章は会場の美を全ふし何時も欠席勝なる講師達の

続々来会せしは一層の景気也中央壇を設け演説の用に供し別に  
 剣舞場を設けて遊興の快を取る午后一時一同着席生徒総代咲間  
 結氏開会の趣旨を述ふ次に寺西準一（平民的道德）土岐鶴之助  
 （所感五則）佐和剛太郎（司法省令）三輪富重（吾人ハ何ヲ以  
 テ新年ヲ迎ヘン）宮下雄七（教育行政）の諸氏各々雄弁を振ひ  
 菊池武夫、土方寧、花井卓藏の諸氏また各演説一番〇去て宴席  
 に入る酒酣なるの時剣舞を演ず湯村恭治井上虎之助二氏吟詩者  
 たり寺西準一氏（落花紛々雪紛々）中根喜三太氏（我有草薙劍）  
 花岡春岳氏（残月滴露湿人袂）多田信夫氏（踏破千山万岳煙）  
 宮下雄七氏（孤軍奮闘破圍還）田中文藏氏（鍛冶研磨幾百回）  
 等の技殊に雄壯を極む最後に花井卓藏氏（孤鞍衝両叩芽茨）及  
 ひ（壮士腰間三尺劍）朝倉外茂鐵氏（鞭声蕭々夜渡河）岡山兼  
 吉氏（豪氣堂々横太空）の技また拍手崩るゝが如き中に終る  
 菊地氏（マヤ）天皇陛下万歳を呼び奥田氏法学院万歳を呼び講師院友  
 生徒各之れに和す奥田義人氏此日の委員長として幹旋最も努め  
 委員として尽力したるもの左に

佐久間誥 松平信恭 三澤房雄 岩崎勝三郎 湯村恭治 林源  
 治 奥村三樹之助 三輪富重 北澤重道 赤井定義 島田喜太  
 郎 寺西準一 鈴木四郎 森惣之助 朝比奈幾太郎 荒木有造  
 小林茂四郎 芝崎金之助 佐藤惣三郎 井出三信 皆川利吉  
 河田貫一 大館不二人 榎本善平

此日此会紅裙の酒杯を周旋するなく絃声の耳を汚すなし誠に近  
 来の快事として記憶に存すべきなり